

【短信】

自分を映す十六の鏡

龍野 直人

「いいさや。」

担任する子どもたちが教室で口々に言います。「もちろんいいよ」とか「いいに決まっているじゃないか」というニュアンスで使う言葉です。私の口癖がうつつているのです。私がよく子どもたちに「いいさや」を使うということは、裏を返せば、子どもたちはよく私に「許可」を求めているのだということになります。のびのびと自分の考えで行動できない空気を出してしまっている自分をしばしば反省します。

今年度より、長野県南佐久郡北相木村にある北相木小学校にお世話になっております。北相木小学校は現在全校六十三名。担任している五年生は十六名です。小さな学校ですが、元気な子どもたちや活気あふれる先生方との生活は、物足りなさとは無縁です。

子どもたちはとても素直で、私から様々なものを吸収

していきます。口癖だけでなく、立ち居振る舞いすべてがうつつていきます。最近の五年生の子どもたちには「忙しがつている」「自分に甘い」という様子がみられます。これも自分が与えているものと、申し訳なく思います。

北相木小学校の教育活動の柱の一つに「自問清掃」というものがあります。指示されるのでも、叱られるのでも、褒められるのでもなく、自己の心と向き合って行う清掃を言います。この自問の精神は、清掃に限らずとても大切だと思いますが、言うほど簡単なものでもなく、自分はまだまだ理解できていないと感じています。

弱さもずるさもある自分と向き合って「それでいいのか」と自問する。そんな姿が、五年生の教室のいろんな場所で見られるようになったら、私自身も自問がわかり始めたということかなと思います。

責任は大きいけれど、教師は幸せな仕事だと思うことが多くなってきました。子どもを見て、自分を省みることでできます。常に課題を突き付けられ、成長の機会を与えられ続ける、刺激的な毎日です。

(たつの なおと 北相木村立北相木小学校)